

雪像でまちに笑顔を
 親子のコミュニケーションから
 地域のコミュニケーションへ

先日、経済の伝書鳩に得川勝巳さん（三区）の自宅前の雪像が取り上げられ話題となりましたが、他にも自宅前に雪像を作っている一人が原田仁臣さん（二区）です。今年作ったのは、アニメ「もーれつア太郎」のニャロメとケムンパスです。



得川さん作
 アンパンマン（↑）
 キティちゃん（↓）

原田さんははじめて自宅前に雪像を作ったのは、昭和60年、当時幼かった息子を喜ばせようとドラえもん雪像を作ったのが始まりでした。それから三十数年、ほぼ毎年作ってきました。「私が大きな雪像を作る横で、子どもも自分で小さな雪像を作ったり、完成したばかりの雪像にはしゃいだ子どもが突進して来てヒヤヒヤしたこともありま。仕事が忙しかった時は夜出張から帰ってきて、そのまま車のライトで照ら



原田さん作
 ケムンパス（↑）
 ニャロメ（↓）



最近では、人口や子ども数の減少など様々な理由により、イベントが減ってきたり、内容が変わったりと、各地域で大人と子どもが一緒になつて何かをする機会が減ってきたという声もあります。いきなり大きなことを始めるのはハードルが高いですが、庭先にちよつとした雪だるまや雪像をつくることから始めてみませんか。



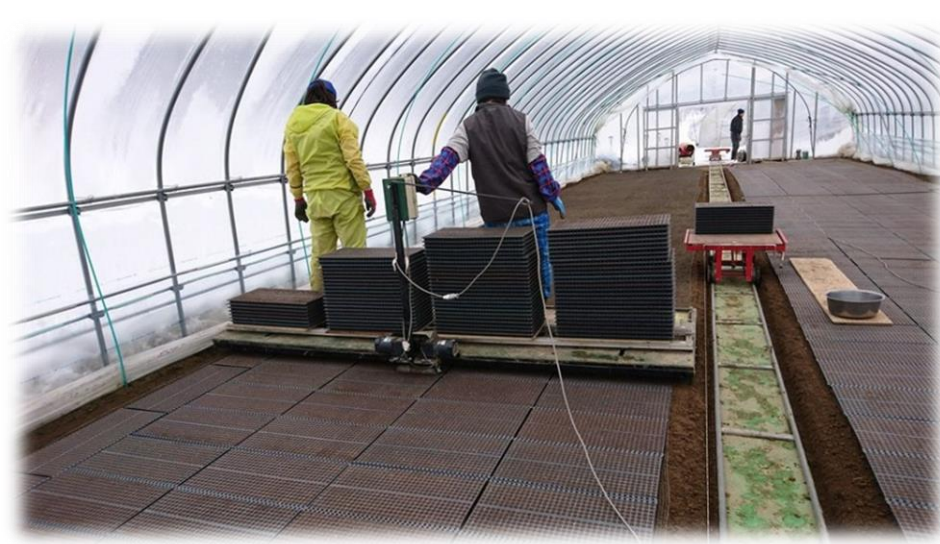
→ はじめて自宅前に作った
 ドラえもん（昭和60年）



→ 大人気だったカオナシ
 （平成14年）



「たんの地域振興だより」は、北見市ホームページにも全号掲載しています。ホームページ内端野総合支所のページに進み、左のアイコンからGO☆ (<http://www.city.kitami.lg.jp/chiki/tanno/>)
 （編集/発行）端野総合支所総務課地域振興係 （電話）0157-56-2113



まだまだ寒さが残る2月、端野自治区の玉ねぎ生産者のハウスで、播種作業が始まっています。この時期は朝夕の急激な冷え込みもあり、温度や水の管理など生産者にとって気の抜けない日々が続きます。こうした努力の積み重ねにより「消費者の期待」に応える高品質でとってもおいしい玉ねぎが生産されています。

日本に玉ねぎが伝わったばかりのころは、その独特の香りのせいか、食用としてなかなか普及せず、観賞用として売られていた時期もあったそうです。今では料理の材料としてだけでなく、調味料の原材料としても欠かせないものとなっています。

最近では、地元産玉ねぎのロシアへの輸出が進められており、玉ねぎは日持ちするため、輸出に向いていることや、特にサイズの小さいものが料理に使いやすいと人気を集めています。もとは海外から伝わってきた玉ねぎですが、地元産玉ねぎが「日本の玉ねぎ」としてロシアだけでなく、広く海外でも知られる日は遠くないのでは…

玉ねぎ播種作業始まる
 地元産玉ねぎが世界へ

～編集後記～ 高級料理にも使われる野菜のチコリ、実は、オホーツク管内で唯一生産しているのが端野町だけだということを知りとても驚きました。チコリは、シャキシャキとした食感やさわやかな香り、ほろ苦さの中に甘さも感じられる味が特徴です。肝機能を高めたり、腸内環境を整えるのにも効果があるんだとか。栽培は、はじめは屋外の畑で、途中からは屋内の畑にひとつひとつ手作業で植え替え、葉が傷つかないようにもみ殻で保護したり、とても繊細です。「野菜の貴婦人」と言われるのも納得です。

さて、平成29年度も今月で最後となりました。昨年、この「たんの地域振興だより」の編集・発行を担当させていただき、どのような視点から情報発信をしていけばよいか、悩むこともたくさんありましたが、新しい企画の挑戦や読みやすさの工夫を心がけていきますので、引き続きご愛読いただければ嬉しいです。（地域振興係 中島）



「第2期北見市総合計画基本構想（案）」に対するご意見を募集しています

北見市がめざす今後10年間の将来像と、それを実現するためのまちづくりの目標などをまとめた「北見市総合計画」の策定が現在進められています。平成31年度からの10年間の「第2期北見市総合計画」の策定にあたり、「第2期北見市総合計画基本構想（案）」がまとめられました。そして、この計画に対するみなさんからのご意見を募集しています。「第2期北見市総合計画基本構想（案）」は北見市ホームページや端野総合支所総務課の窓口でご覧になれます。

《意見の募集期間》 2月15日（木）～3月16日（金）
 （お問い合わせ：北見市企画政策課 電話25-1103）